

2019

# 参院選

## 立候補104人、最高の28%

# 女性議員躍進なるか

女性の政界進出は本当に進むのか。今回の参院選は、政党に男女の候補者を均等にしよう求める「政治分野の男女共同参画推進法」が2018年5月に成立してから初の大型国政選挙だ。選挙区と比例代表で計104人の女性が立候補し、候補者に占める割合は過去最高の28.1%となり、女性の政治参加を応援する団体で学んで出馬を決めた新人候補も目立つ。

「熱意ある女性と出会い、初めて国会を目指そうと思えた」。参院選の比例代表で出馬し、関西で選挙活動をしている40代の新人女性候補は力強い

## 勉強会で刺激 新人も挑む



街頭演説を終えた女性候補者(手前)に握手を求める有権者ら(4日、東京都内)

く話す。候補は当初「弱者に寄り添う社会をつくりたい」と地方議員に関心があつたという。

18年7月、女性の政治家を育てる一般社団法人「パリティ・アカデミー」(東

▼政治分野の男女共同参画推進法 国政や地方選挙で男女の候補者数をできる限り等しくするよう促す法律。数値目標の設定など、政党や政治団体に自主的な取り組みを求めているが、努力義務のため罰則はない。海外では候補者を男女同数にするよう義務付ける「パリテ法」や一定数を女性に割り当てる「クオータ制」を取り入れている国や地域がある。

京の「女性政治リーダー・トレーニング」台宿に参加。会社員や経営者など様々な女性が政治への思いを語る姿に「目線の高さに刺激を受けた」と振り返る。政党関係者からスカウトされ、国政への挑戦を決めた。

同アカデミーは18年3月、お茶の水女子大の申きよん准教授(政治学)らが「学術研究に基づくプログラムで若手女性の政治参画を促す」目的で設立した。セミナーで現

役の女性議員がやりがいや苦勞をさっくばらんに話し、スピーチの練習やSNSの活用法も伝える。これまでに高校生から40代まで延べ約60人が参加し、今春の統一地方選では同アカデミー出身の4人が当選した。

「政治分野の男女共同参画推進法の成立は明らかに追い風になった。女性自身が立候補の大切さに気付けた」。女性の政治参加を推進する一般財団法人「WINWIN」(東京)の山口積恵専務理事は手応えを感じているという。

勉強会などを続け、今回の参院選でも3人の議員未経験者を送り出した。ただ「せっかく選挙に立ち上がったけれど、選挙活動では女性が直面する問題がまだまだ多く残っており、支援が欠かれない」と強調する。

選挙活動では、女性候補への票ハラスメントと呼ばれる嫌がらせが表面化している。山口さんの元にも「夜遅くに有権者が事務所に来て暴言をぶつけられたが、誰にも相談できない」「2人の子供のベビシッターを

雇わないと夜まで選挙活動できない。費用がかさむが、党に言い出せない」などの悩みが聞こえてくる。

WINWINでは女性政治家らの寄付金を元に、候補者に支援金を給付している。今回の参院選では8人に1人30万円ずつを渡した。山口さんは「身だしなみなど女性ならではの使途もあり、わずかでも役立ててほしい」と話す。

内閣府が17年度に実施した女性地方議員への調査によると、選挙活動中の悩みは「資金不足」「家事・育児・介護との両立が難しい」が目立ち、当選後も「女性として差別やハラスメントを受けた」との回答が約3割あつた。

お茶の水女子大の申准教授は「男性候補が主体の選挙活動では、政策議論よりもいかに有権者と握手をしたかが評価されるところが板選挙が続いている。各党は候補への選挙指導を見直してほしい。議会が男女均等になれば互いの違いを尊重し合える社会に近づく。今回の参院選は絶好のタイミングだ」と話している。